

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム  
 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：22009

「学ぶ力」	
成果	課題
◇札幌市の共通指標から「分からないことがあったとき、友達や先生に聞くようにしている」「学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている」児童の割合が非常に高い。 ◇AAR サイクルの視点に沿った授業改善を意識してきたことで、学習に見通しをもち、集団で学ぼうとする意識が高まってきている。	◇札幌市の共通指標から「意見を書くときには、その理由をはっきりさせて書くようにしている」「意見を発言する前に、自分の考えが伝わりやすくなるよう、話の内容や順序を考えている」に対し、約20%の児童が否定的な回答をしている。 ◇集団で学ぶ意識の高まりが見られるため、更に自らつながろうとしたり、つながるよさを実感したりする姿を大切にしなければならない。 ◇自己を見直し、次の学習や活動につなげる力を高めていく必要がある。全国学力・学習状況調査の結果でも、全道平均よりやや下回っている。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇札幌市の共通指標から「人の役に立てうれしいと感じることがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の児童の割合が非常に高い。しかし、「自分が必要とされていると感じる」の児童の割合は先の2項目と比較すると、10%以上低くなっている。学校生活の様々な活動を通して、児童が自己有用感、自己効力感を高めていけるよう取り組んでいきたい。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

対話を通して学びを深める資質・能力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	◇「対話を通して学びを深める子どもの育成」を目指すための2つの視点 ①子ども自ら他者とのつながりを求めるための手立て →「つながりたい」という思いを生むための仕掛けや他者とのつながる力を高めるための活動 ②子どもの学びを深める手立て →「会話」ではなく、気づきを得たり、考えを深めたりする「対話」を大切に、資質・能力を実質的に高める技術	◇対話を通して自他のよさに気付いたり認め合ったりすることで、相互承認の感度を高めていく。 ◇委員会、クラブ活動等を通して、子どもの『～したい』という思いを実現できるようにしていく。
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について		
◇各教科において端末を活用する技能を身に付けていく。そのためには、昨年度作成した「総合的な学習の時間」の計画を参考にしながら、今年度の取組みも記録化し、端末を生かした学びの充実を図っていきたい。ネットモラルの指導も各学年で行っていく。		

<本プログラムの実行に向けて>

